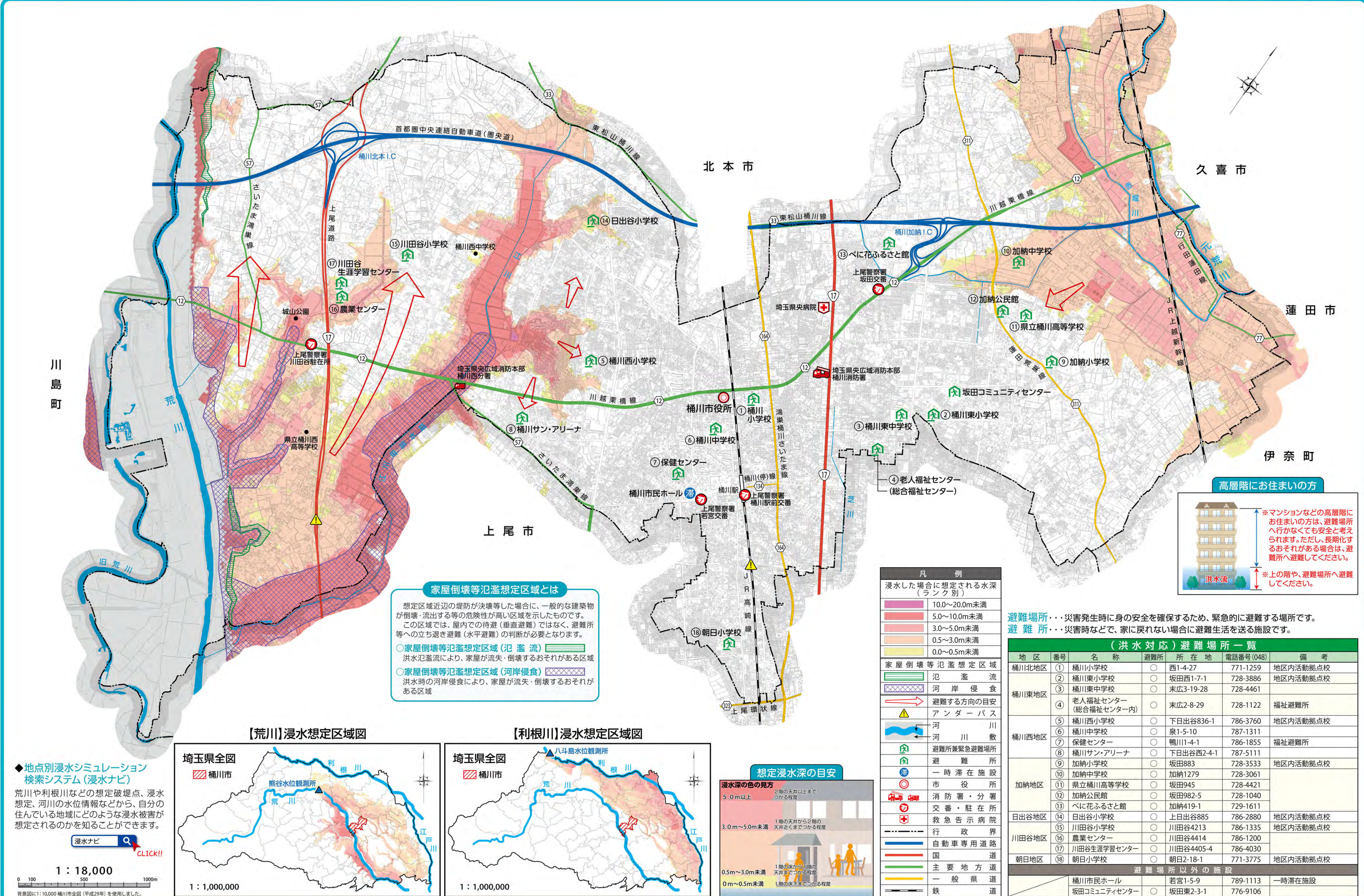


洪水ハザードマップ【荒川・利根川】

この地図は、豪雨等により荒川と利根川の水かさが増え、川の水が堤防を乗り越えたり、堤防が破壊することで氾濫した場合、住民のみなさんの避難に役立つよう作成したものです。いざという時に備えて、あなたの家から避難までの経路や家族の連絡先などを書き込んでおきましょう。

このマップの浸水の範囲と浸水深度は、荒川と利根川において最大規模（千年に一度）の降雨により、堤防の決壊などによって荒川が氾濫した際の最悪の浸水状況（全ての想定浸水による浸水範囲と浸水深さを重ね合わせ）を表示しています。なお、地図に示した浸水範囲以外でも、雨の降り方や土地利用の変化などにより浸水することがありますので、注意してください。

想定雨量 【荒川】荒川流域の72時間総雨量が632mm（平成28年5月30日国土交通省指定）
【利根川】利根川流域、八斗島上流域の72時間総雨量が491mm（平成29年7月20日国土交通省指定）



家屋倒壊等氾濫想定区域とは
想定区域近辺の堤防が決壊した場合、一般的な建築物が倒壊・流出する等の危険性が高い区域を示したものです。この区域では、屋内での待避（垂直避難）ではなく、避難所等への立ち退き避難（水平避難）の判断が必要となります。
○家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
洪水氾濫により、家屋が流失・倒壊するおそれがある区域
○家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）
洪水時の河岸侵食により、家屋が流失・倒壊するおそれがある区域

凡例

浸水した場合に想定される水深（ラック別）

- 10.0～20.0m未満
- 5.0～10.0m未満
- 3.0～5.0m未満
- 0.5～3.0m未満
- 0.0～0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域

- 氾濫流
- 河岸侵食

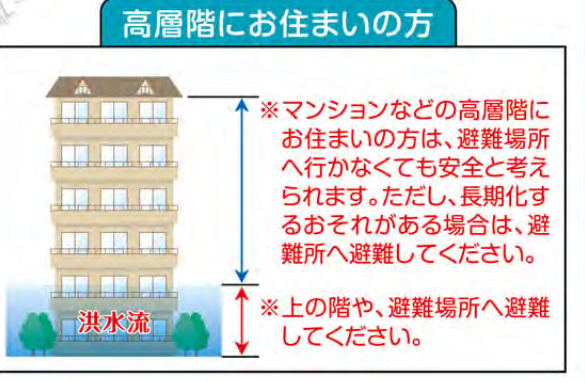
避難する方向の目安

- アンダーパス
- 河川敷
- 河川
- 河川敷

避難所緊急避難場所

- 避難所
- 一時滞在施設
- 市役所
- 消防署・分署
- 救急告示病院
- 行政界
- 自動車専用道路
- 国
- 主要地方道
- 一般県道
- 鉄

避難場所・・・災害発生時に身の安全を確保するため、緊急的に避難する場所です。
避難所・・・災害時などで、家に戻れない場合に避難生活を送る施設です。



（洪水対応）避難場所一覧

地区	番号	名称	避難所所在地	電話番号(048)	備考
桶川北地区	①	桶川小学校	西1-4-27	771-1259	地区内活動拠点校
	②	桶川東小学校	坂田西1-7-1	728-3886	地区内活動拠点校
	③	桶川東中学校	末広3-19-28	728-4461	
桶川東地区	④	老人福祉センター（総合福祉センター内）	末広2-8-29	728-1122	福祉避難所
	⑤	桶川西小学校	下日出谷836-1	786-3760	地区内活動拠点校
	⑥	桶川中学校	泉1-5-10	787-1311	
	⑦	保健センター	桶川11-4-1	786-1855	福祉避難所
桶川西地区	⑧	桶川サンアリーナ	下日出谷西4-1	787-5111	
	⑨	加納小学校	坂田883	728-3533	地区内活動拠点校
	⑩	加納中学校	坂田982-5	728-1040	
加納地区	⑪	東立桶川高等学校	加納945	728-4021	
	⑫	加納公民館	坂田982-5	728-1040	
日出谷地区	⑬	日出谷小学校	上日出谷885	786-2880	地区内活動拠点校
	⑭	川田谷小学校	川田谷4213	786-1335	地区内活動拠点校
川田谷地区	⑮	農業センター	川田谷4414	786-1200	
	⑯	川田谷生涯学習センター	川田谷4405-4	786-4030	
朝日地区	⑰	朝日小学校	朝日2-18-1	771-3775	地区内活動拠点校
		桶川市民ホール	若宮1-5-9	789-1113	一時滞在施設
		坂田コミュニティセンター	坂田東2-3-1	776-9106	

◆地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）

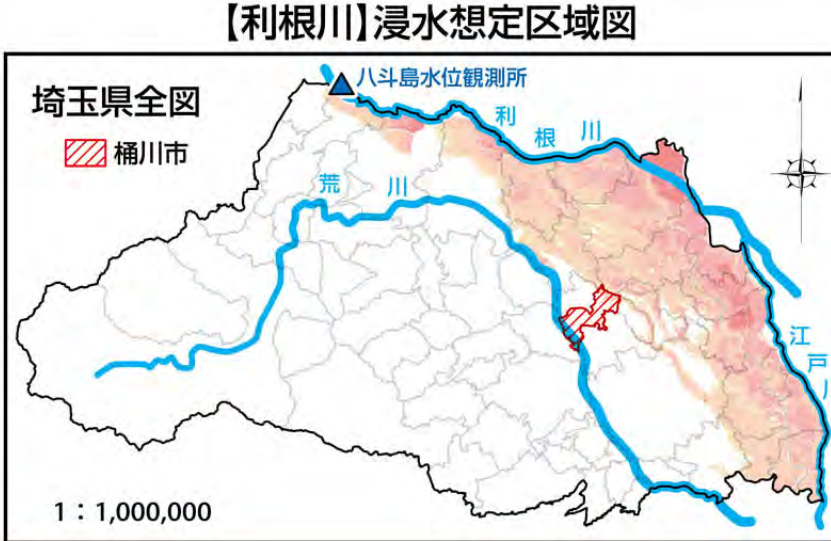
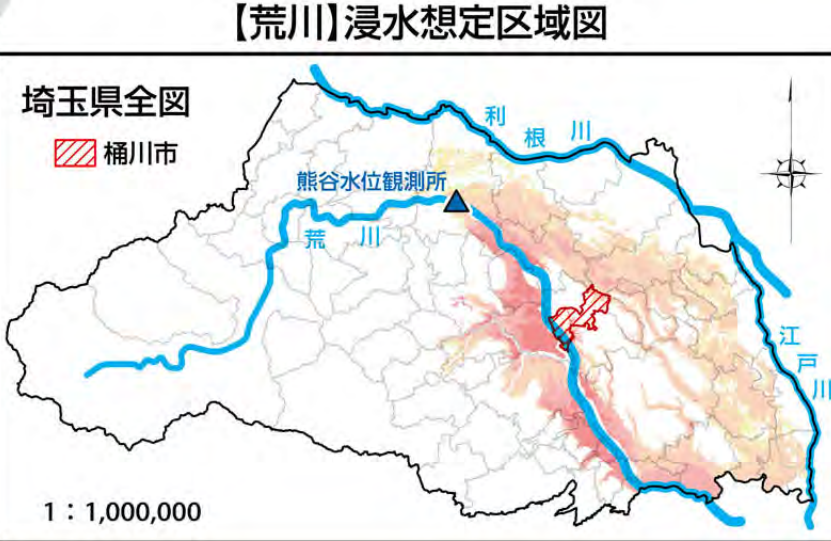
荒川や利根川などの想定浸水範囲、浸水想定、河川の水位情報などから、自分の住んでいる地域にどのような浸水被害が想定されるのかを知ることができます。

浸水ナビ

1 : 18,000

0 100 500 1000m

資料元：1:10,000 桶川市（平成29年）を参照しました。



想定浸水深の目安

浸水深の色の見方

- 5.0m以上：1階の天井から2階の天井まで浸水する可能性がある
- 3.0m～5.0m未満：1階の天井から1階の天井まで浸水する可能性がある
- 0.5m～3.0m未満：1階の天井から1階の天井まで浸水する可能性がある
- 0m～0.5m未満：1階の天井から1階の天井まで浸水する可能性がある

日頃の備え

みなさんの生命や財産を守るためには、一人ひとり、あるいは家族が協力し、普段から備えておく必要があります。災害の際の安全性についてチェックし、補強や配置替え・清掃なども行っておきましょう。

●建物などの事前準備

- 屋根瓦のずれなどを補修して飛ばされないようにする。
- アンテナや煙突などの補強をする。
- 雨風の強いガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
- 雨戸のないガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
- 雨風の強いガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
- 手すりや壊れていたら補修する。
- 古い雨戸は、飛ばされないように動かないように調整し、つらな部分を調整して、応急の補強をする。
- 建物の周囲にある風に飛ばされそうな物を取り込む。
- 浸水の危険がある場合には、大切な家具等は二階や高い安全な場所に移動する。
- プロパンガスホベはしっかり固定する。

●避難経路の確認

避難場所までのルートをあらかじめ決めておき、安全に通行できるかを実際歩いて確認しておきましょう。

☆外出している家族が、交通機関のマヒなどで帰宅できない場合もあります。家族が別々の場所から避難する場合は、連絡方法や避難場所・集合場所を日頃から話し合っておきましょう。

●側溝や雨水ますの清掃

側溝や雨水ますが詰まると、道路冠水や浸水の原因になるため、台風の前や大雨が予想される場合には、近所の側溝や雨水ますが詰まっていないか確認し、清掃を行っていきましょう。

●自宅周辺の危険箇所を確認

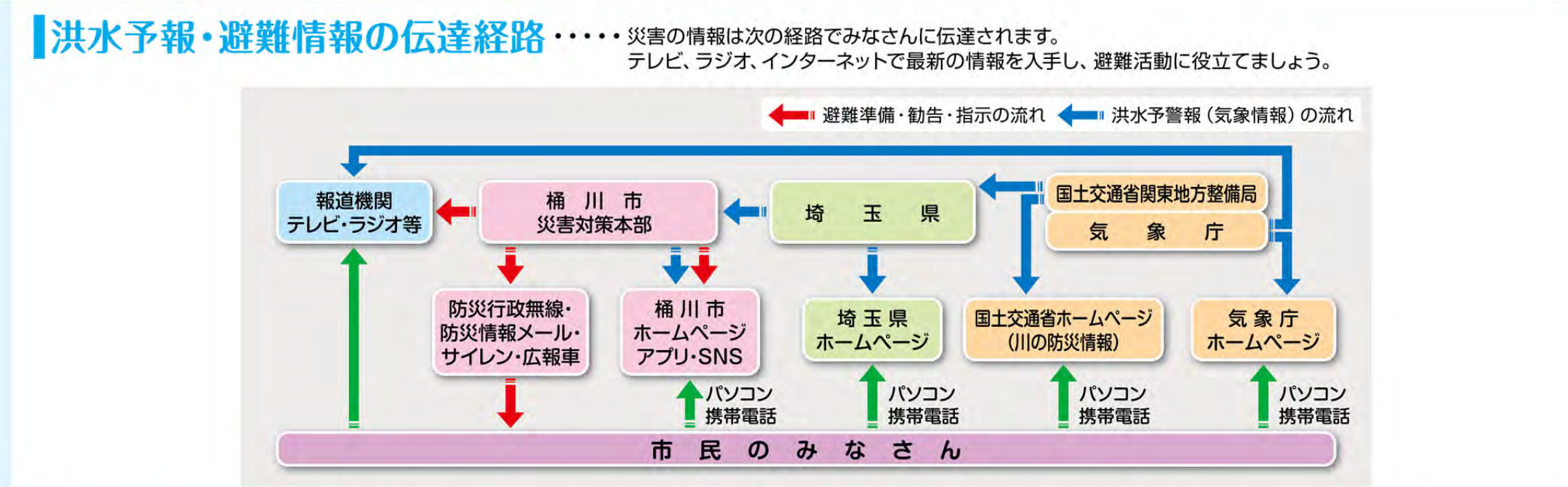
河川やアンダーパス（※）はもちろん、洪水時は浸水により足元が見えなくなるため、マンホールや用水路、側溝など、自宅周辺に潜む危険箇所を事前に把握するとともに、避難経路を確認しておきましょう。

※アンダーパス 主要幹線道路や鉄道などと立体交差する低く、路面の高さが前後と比べて低くなっている区間。

●家庭にあるものを利用して浸水防止

- ★簡易水のうを活用して
- ★プランターやポリタンクを活用して
- ★止水板を活用して

水害発生時 避難情報の伝達



避難情報の種類と水位の見方・・・市から避難に関する情報が発表されたら、市民のみなさんは、ご家族やご近所と協力して安全に避難してください。

緊急の度合	国土交通省・気象庁・埼玉県が発表する情報	市が発表する情報	市民のみなさんがとる行動	河川の水位
高	避難発生情報（洪水警報） 避難危険情報（洪水警報） 避難警戒情報（洪水警報） 避難注意情報（洪水注意警報）	避難完了 避難指示（緊急）の発令 避難警戒の発令	避難指示（緊急） 市民に対する避難の命令を行うものです。	危険水位 5.50m 判断水位 5.00m 注意水位 3.50m 平常時の水位 3.00m
中		避難準備・高齢者等避難開始の発表	避難準備・高齢者等避難開始 避難準備・高齢者等避難開始は、避難に時間を要する高齢者や障害者などが必要な避難者とその支援者に、立ち退き避難を促すものです。	避難発生 又は氾濫発生のおそれが高い場合 氾濫危険水位（危険水位） 避難判断水位（特別警戒水位） 避難注意水位（警備水位）
低				水防団待機水位（通報水位） 水防団の出動に必要となる水位 平常時の水位

気象情報の入手

災害に対して適切に対応するには、正確な情報の収集が必要です。テレビやラジオなどからの報道情報のほかに市役所からの呼びかけにも注意して、最新の気象情報・災害情報・避難情報を把握しましょう。

気象庁が発表する注意報と警報

大雨や暴風などに警戒や注意を必要とする時間帯が市町村単位で一目でわかるように発表されます。また危険度分布や避難情報なども確認できます。それらを活用して避難行動をとる準備や対策を行います。

大雨・洪水に関する情報は、「大雨注意報」、「大雨警報」、「洪水注意報」、「洪水警報」、「記録的短時間大雨情報」などがあります。また「特別警報」が発表された場合は数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあります。これまでに市の避難情報に従うなど、適切な行動をとってください。

これらの情報は気象庁のホームページやテレビのポータルから確認できます。

気象庁 警報・注意報

●「警報・注意報」と「警報級の可能性」
気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

●大雨警報（浸水害）の危険度分布
<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

●洪水警報の危険度分布
<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

水害発生時 避難の注意点

雨や風が強いときに出外することは大変危険なため、危険が迫る前に早めに対策をとることが重要です。自ら積極的に気象情報等を入力し、早めの避難を心がけましょう。また既に河川が氾濫している場合は、屋外を移動して避難所へ避難する途中で被災することも考えられるため、自宅等の室内に留まったり、建物の上へ移動するなど状況に応じた行動を取りましょう。

●正確な情報収集と自主的避難

ラジオやテレビ、携帯電話を利用して、最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。

雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

●避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、市役所や消防団から避難の呼びかけをします。

その場合には、速やかに避難してください。

●避難の前に確認

避難する前に、ガス、電気、火の元を点検しましょう。

避難場所を確認し、途中で家族が離散したときの行動も決めておきましょう。

●動きやすい服装で、2人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、2人以上での行動を心がけましょう。

できる限り単独での避難は避け、近所や声をかけ合って避難しましょう。

●水面下の危険にも注意

避難の際は、できる限り高さのある道路を通るようにしましょう。

浸水場所では、側溝やふたがはずれたマンホールなどに注意しましょう。

●逃げ遅れたら高い建物に避難

万一、逃げ遅れたら避難場所まで行く余裕が無い場合は、近くの丈夫な建物の三階以上に避難して救助を待ちましょう。

建物の二階部分でも場所によっては危険な場合があります。

●車での避難は避け、堤防に車を放置しない

車での避難は緊急車両の通行を妨げますので、特別の場合を除きやめましょう。

また、車を堤防や道路に放置すると、水防活動の妨げになりますので、やめましょう。

●避難所では 共同生活のルールを守る

避難所では、大勢の方と共同生活をするようになります。

浸水状況によっては、避難所での生活が数日間になる場合もありますので、ルールを守り、お互い助け合って生活するように心がけましょう。

雨の降り方と雨量の関係・・・雨の降り方と雨量の関係を知り、避難活動に役立てましょう。

	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm以上
予報用語 1時間雨量 (mm)					
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる		
屋内	雨の音で話し声がよく聞き取れない		覆っている人の半数くらいが雨に気がつく		
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車の運転は	—	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	